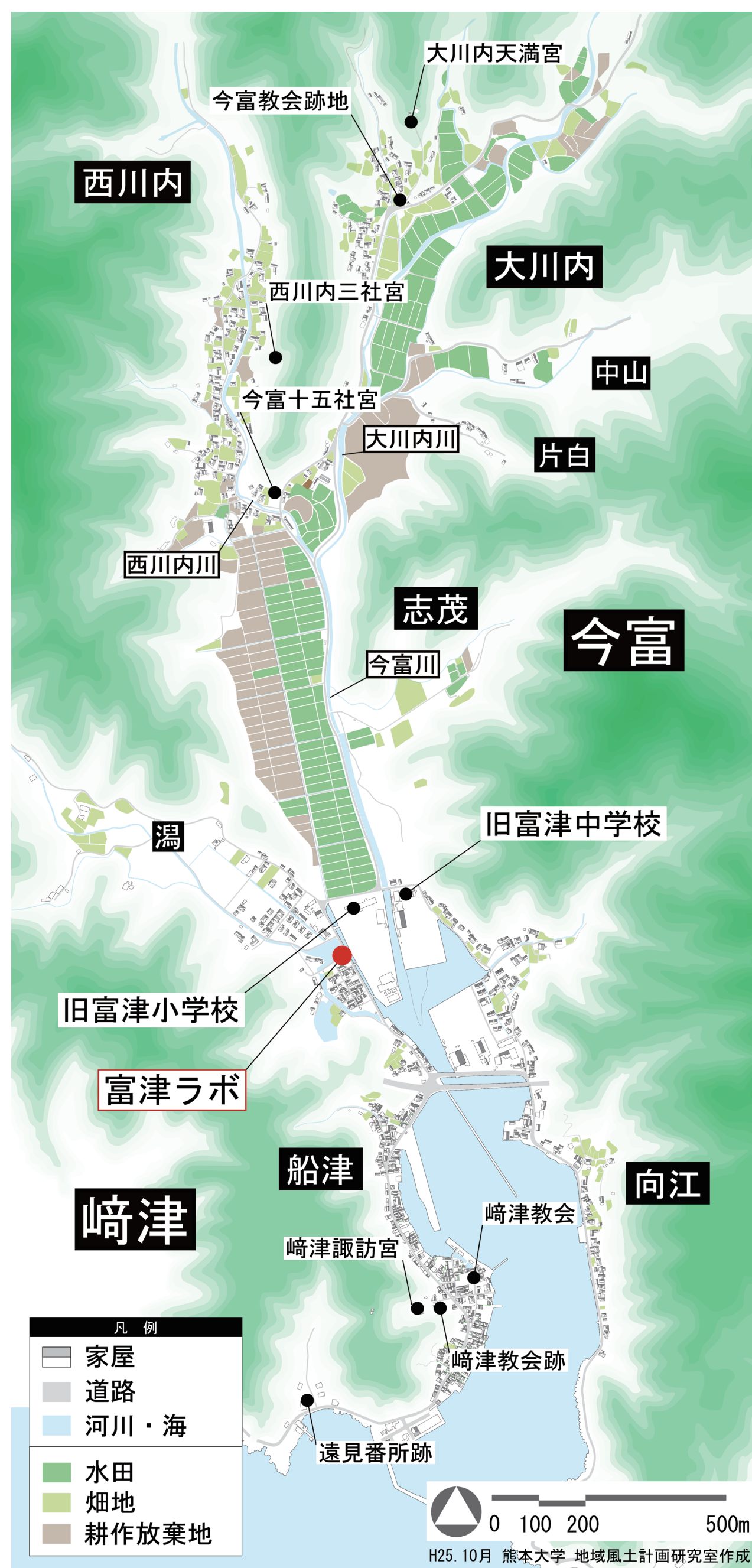


「10年後の自分へ」を地域の未来に！

TEAM RED Lab.

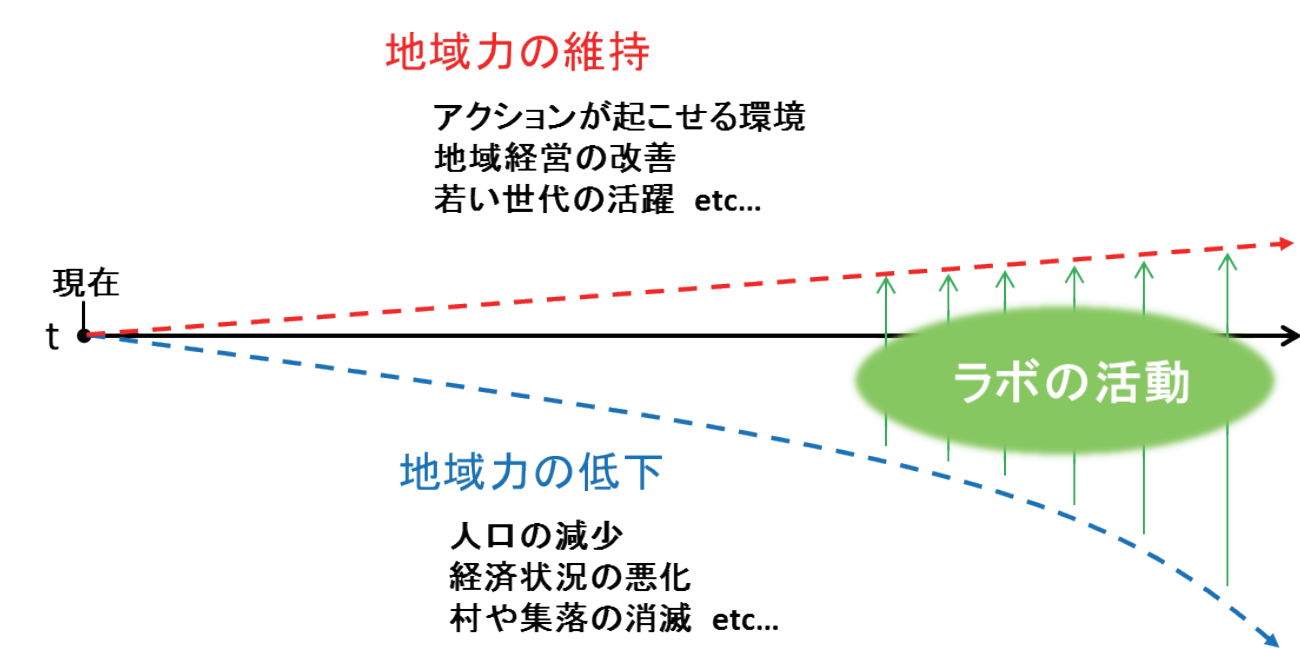
■富津地域の概要

富津地域は天草下島羊角湾の入り江に位置し、古くはカクレキリシタンの里として栄えた歴史を持ち、重要文化的景観に選定された特異な漁村・農村景観を有する。しかし、近年少子高齢化に伴う担い手の減少や唯一の小学校が閉校となり地域が活力を失ってきている。



■富津ラボの概要

住民へのヒアリングやまち歩きを通して得られた意見から天草市、富津地区振興会、地域風土計画研究室が平成24年9月に富津ラボを始動させた。天草市が閉校後の教頭先生の旧教員住宅の貸与を検討・実行の末に設置された。主に地域風土計画研究室の地域マネジメント研究やラボのイベントとしてWS等を開催するなど地域づくりの実践のための拠点および宿泊場所として利用されてきた。また地域住民と大学、行政の会合や食事会の場としても利用されている。富津ラボを通して行われる活動や地域のイベントへの学生の参加、週末に学生が多くいるという状況から富津地域における富津ラボの認知度も徐々に向上している状況である。



■富津でのイベント



■「10年後の自分へ」インタビュー調査

10年後までに地域の方々が富津地域のためにできること、あるいは望んでいることをインタビューすることにより、今後富津ラボを運営していく上でのヒントを得る。

働く場所、集う場所、空き家対策、企業誘致、チームワーク、地域内交流、子どもを増やす、農業経営、観光客をターゲットとした施設、環境整備、特産品の開発、地域のリーダーとしての役割、トイレの整備、ボランティアガイドの育成、教会存続の後継者、清掃活動、富津ラボでの活動をもっとやってほしい、農漁業の後継者、基盤整備 etc...

■富津ラボをしたてる【仕立てる】

インタビュー調査から地域の方々は富津の将来のビジョンをもっており、具体的に展開したい活動をもっていることがわかった。将来、富津ラボでは思考をアクションに移せる場としての役割を担うことを目標とする。そのために

- ①まず外部（主に大学や行政）からの話題提供、イベント開催の場としての認識を広げると共に、多くの人が参加できる体制をつくっていく。
- ②次に地域発信のイベントを開催できるよう地域の方々のお話の中から活動のヒントを抽出しイベントを企画する。
- ①②を繰り返すことで富津ラボの活用施策を考え、議論することにより地域住民ひとりひとりの思考をつなぎアクションを起こすことができる場として富津ラボが機能するよう富津ラボをしたてることを提案のコンセプトとする。

「したてるためにしつらえ、しかける」

(1) しつらえる【設える】

住民に来てもらうための下地を作る。「ラボに行きたい!」と思ってもらえるようなしつらえを整える。これらは決して大掛かりなものではなく、住民と協力して準備することができるものである。

①看板（実践済み）

富津ラボの前を通る地域の方々の目を引くために看板を2つ作成・設置した。ひとつは木材に富津で採れた貝殻や今富で採れた木の実を貼り付けたもの（平成25年8月に完成した富津地区のシンボルマークスタンプも押印）、もう一つは竹プランターづくりの際の廃材を利用したものを作成した。



④「10年後の自分へ」成果物の保管・展示

②竹プランターづくり（実践中）

地元有志で組織される竹花会は竹でプランターをつくり、花を植えて各家庭に配り育ててもらった活動を行っている。富津ラボの活動として竹プランターを子供達と一緒につくった。今後花の苗を植えて小学生の自宅やラボで花を大切に育てることで景観的な美しさの維持、観光客を迎える準備を狙っている。

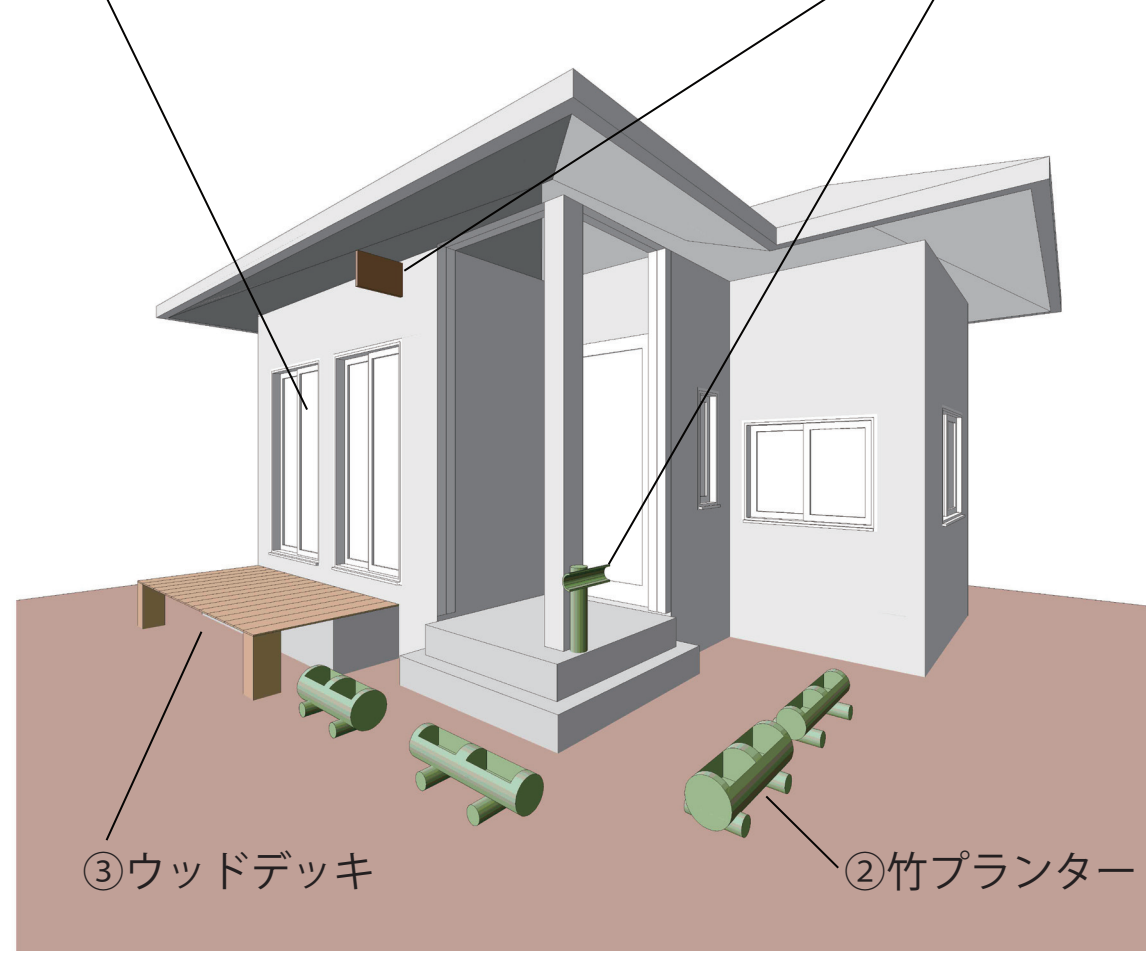


③ウッドデッキ

ラボの縁側としてウッドデッキを作成し、屋外でのWS活動や食事会に活用する。富津ラボの前を通る人の足を止め、迎え入れる体制をつくる。

④「10年後の自分へ」成果物の展示

「10年後の自分へ」インタビューにて書いてもらった画用紙やその際に撮影した写真を富津ラボに展示する。ラボに来た住民がこれらを見ることで互いの夢や目標を共有し、富津ラボ・富津地域の次のステップとなるアイデアを見出すことができる。



(2) しかける【仕掛ける】

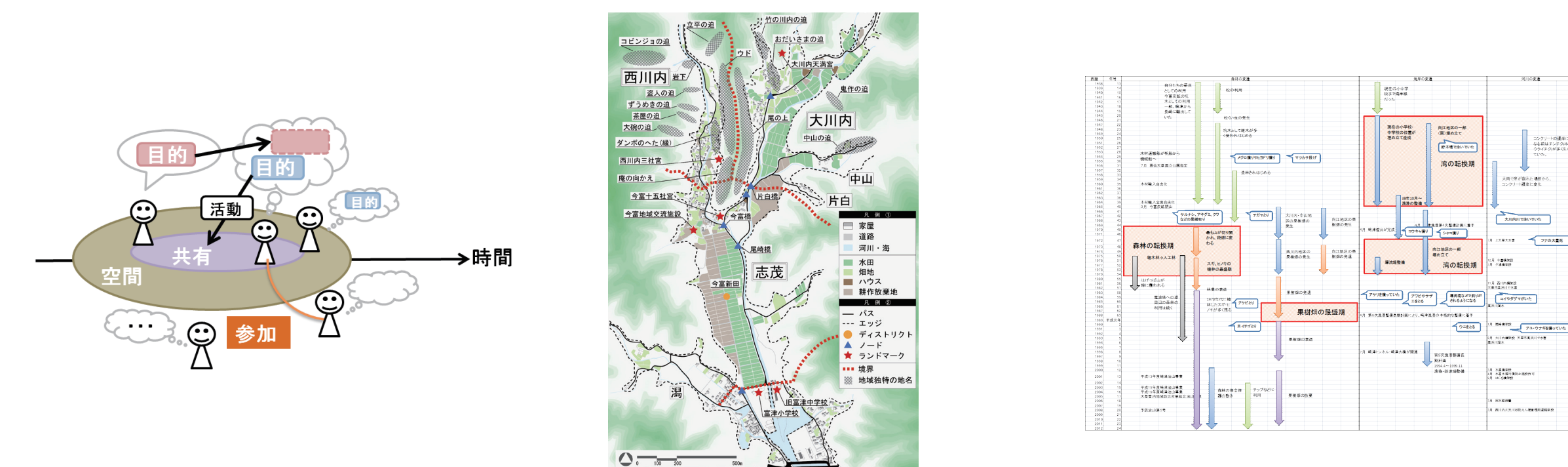
富津ラボは大学や行政が一方向的に運営するような単方向的なものではなく、住民の参加や住民からの提案を通して相互的に運営されていくものである。設立にあたっての準備や初期運営については行政と大学が連携して進める。富津ラボでの活動を通して地域での認知度を高め、参加者も増やしていく。最終的には富津ラボの運営を完全に住民に譲渡し、大学・行政はその支援者という立場に転換する。理想とする最終形態は、地域住民だけで富津ラボを管理運営し地域に根付いたものとなることである。

●富津ラボでの研究発表会

ここでは富津ラボの「研究拠点」としての機能を生かす。これまで地域風土計画研究室で行ってきた富津地区における研究の成果を地域住民と共有し「今まで知らなかった富津」を発見し気づいてもらう。



- 天草富津地区における住民参加による場づくりに関する研究
- 天草今富地区における暮らしに根ざした景観構造に関する研究
- 天草富津・今富地区における身近な自然環境の変遷に関する研究



- 発見：富津における場のできかたや非日常の場づくりが日常の場づくりへと発展する要素を持っていることがわかった。
- 発見：今富地区の住民は宗教的な歴史や地域を取り巻く自然環境、農業に影響を受けた空間認識をしていた。
- 発見：自然環境の変遷は1970年代を中心に変化し身近な自然環境の変化や変容プロセスを理解できた。

■今後の展望

最終的な目標としては地域住民から「ラボって前からあったものじゃないの?」と言われることである。富津ラボを地域の中心、当たり前の存在としてしたてていくことが私たちの目標である。

